



号外

2010年冬号 2010年12月発行
地域版(千種・守山・名東) 民主党プレス民主編集部
100-0014 東京都千代田区永田町1-11-1
EL 03-3595-9888(代表)
連絡先: 民主党愛知県第2区総支部
464-0075 名古屋市千種区内山3-8-16
キワビル2F
EL 052-732-9862 FAX 052-733-6382

民主党市議団市政報告



日々学び、日々精進

ひび健太郎 名古屋市議員

対立と混乱より 対話と建設を。 議会を政局より 政策議論の場に。

ひび健太郎プロフィール 昭和55年生まれ 名東区生まれ、名東区育ち
上社幼稚園1987年卒園 猪高小学校1993年卒業 猪高中学校1996年卒業
名城大学附属高等学校1999年卒業 名城大学 理工学部建築学科2003年卒業

衆議院議員古川元久 秘書
2007年4月8日名古屋市議員選挙初当選
経済水道委員会副委員長 大都市行財政改革推進委員会副委員長
[趣味] テニス、一人旅、銭湯 [血液型] AB 型
[大事にしていること] いつも笑顔でいること。
[好きな作家] 浅田次郎 東野圭吾 北方謙三
mixi ひびけん Twitter hibi_kentaro

名古屋市長選挙立候補予定者

石田よしひろ さんに 推薦を決定!

「破壊者から創造者への選手交代」

河村さんは名古屋を有名にしてくれたし、議会と対立することで旧態然とした体質を壊してくれた。それは河村さんの功績。
しかし対立を続けてばかりでは新しい名古屋の将来の姿やこれからの地方自治を担う新しい議員のあり方は描けない。
優れた破壊者の河村さんから、創造者としての石田よしひろにバトンタッチ!

「市長は税金を無駄なく有効的に使う責任を負う」
減税は否定しないが、必要額以上の効果額が見込めなければ税金を有効的に使うという市長の責任を果たしたことはありません。
減税してお金をばらまくよりも借金を減らして成長する名古屋をつくる方が至難の業。安易に減税のみを語るのではなく市民の皆さんに税金を有効的に使う選択肢を提案したい。

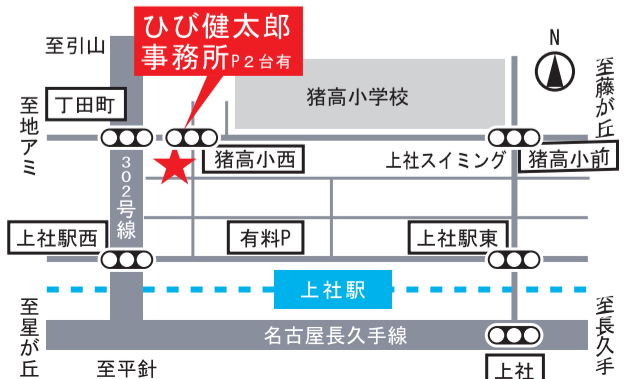


石田よしひろプロフィール
1945年 犬山市生れ
1969年 同志社大学商学部卒
1983年 愛知県議会議員
1995年 犬山市長 2009年 衆議院議員
学校法人神野学園理事長
同志社大学総合政策研究所講師

市政へのご意見をお聞かせください。

ACCESS

上社駅西側道路を北へ徒歩5分
465-0025
名古屋市名東区上社1丁目
402番地 柴昭ビル1E
TEL 052-777-3193
Fax 052-777-7330
Mail info@hibiken.com



ひび健太郎の目指す市政

私の目指す社会は、持続可能で、将来に安心感をもてる社会です。将来に不安を感じる必要なく、チャレンジができる社会こそ、今の日本に、そして市政に求められているのではないのでしょうか。

充実した教育の実現

私が最も大切にしたいのはひとづくり。優秀な人材が育つことこそが、国や地域の将来を明るいものにし、発展してゆく唯一の方法だと確信します。そのために効果的な先進事例の導入や教育施策の検証、あるいは教育を取り巻く組織や環境の在り方の見直しなど、あらゆる面から子供たちの教育の充実のために努力します。

「あれもこれも」から「これだけは」へ

今の市財政は、収入より支出が上回り、毎年借金をしなければ成り立たない状態になっています。このままでは、医療や福祉などの絶対に必要なサービスも維持できなくなる危険性があります。やるべきことはやる、我慢すべきところは我慢する。正直で持続可能な市政を行う必要があります。

信頼できる市政に

目先のことだけでなく将来を見据えた計画的な行政こそ何よりも大切です。人気取りや、奇をてらった施策に走らず、持続可能で信頼できる市政を実現できるよう努力します。

[http:// www.hibiken.com](http://www.hibiken.com)

検索

ひびログ(ブログ)からの抜粋 12月9日「採決について」

12月の本会議で、報酬の採決に際して、無作為抽出等による第三者委員会に議員報酬を委任するという民主・自民・共産の議員提出議案、ならびに、次期4年後までに報酬額を段階的に800万円まで引き下げ、引き下げ幅を無作為抽出による第三者委員会に委任するという市長案のいずれにも退席しました。

退席は恥ずべき行為で、そしりは甘んじて受けなければならないと考えています。今回の両議案に対して私が思うところを申し上げます。

まず、市長に対してですが、なぜもっと早く議案を出してこなかったのか? 議会閉会日当日、これまでのただ800万円に引き下げるという案を突然撤回し前述した案を上程してきて、もともと閉会日で審議する時間も十分に与えないというやり方は、否決させることが目的としか思えないやり方であり、到底理解できるものではありません。市長が日頃から繰り返し主張しているように十分な審議もおこなわず……。という以前に、十分な審議を行わせないのはあくまで対立にこだわって政策の実現にはこだわらないからなのか。歩み寄りをアピールするならば話し合いのテーブルにきちんとルールにのっとって着くことが必要ではないのか。

会派に対しては、組織の人間である以上従うべきというのが原則。しかし、両議案を見て、大同小異であるにもかかわらず、審議する時間が足りなかったことも議案提出者としての経緯もあるが、現時点で溝が埋まらない、埋める努力をしていないという点で民自共案も腹に落ちなかった。

もし再議になれば、両議案をきちんと同じテーブルに乗せて議論して、互いにゆずるところもあってもいいのではないのか。

争いだけでは何も生まれないし、現時点で市長はとにかく自分の案が通らなければ全部議会側が悪いという理屈を圧倒的な情報発信力でぶつけてくる以上、市長と協議した上での報酬案でなければこの問題は落ち着きようがない。

私の気持ちは、一刻も早く報酬の議論は終わらせて、本来の議会と市長の姿に戻したい。議場は市の政策について議論を戦わせる場でなければならない。

減税について、反対なら反対で議論を戦わせればいいし、地域委員会や、名古屋市の未来についてを真摯に議論してぶつかり合うことが望むべき姿だろうと思う。今はすべてが報酬の話で減税でもほかの話題でも、その政策対立はほぼ関係なく、報酬額の削減だけで署名が集まってリコールが行われるような事態を早く収めなければならない。

だからと言っていいなりになればいいのかとは思っていない。市長はどうあれリコールで示されたように、市民が800万でやれというなら一度やってみればいい。もしそれで質の低下や硬直化が起きるのならばそれはそれを選択した市民の責任だし、その時に残った人間があるべき姿に戻せばいい。もうそういう局面に来ているのではないのか。

減税は反対。

それは今の規模では226億円の必要額に対してその金額に見合う効果は見込めないとする、名古屋市の依頼した大手調査会社の指摘の通りである。市長の思いだけでは効果がないとする調査結果を覆す根拠にはならないし、何より自分で調査しておいて効果がないのがわかったのならばなぜ効果があるようなやり方に修正しないのか。効果的に税金を使うという責任を放棄してはいないか。

それならば減税規模を広げて国際競争力を持てるくらいの効果的なものにするか、それとも歳出を圧縮した結果減税をするのかの選択肢を取らなければ無駄に税金を使い、将来につけを先送りするだけになってしまう。その政策論できちんと戦うためにも、一刻も早く市政を正常化すべきと強く思う。

対立より対話がしたい。もう場外乱闘には辟易としています。市長はもう対立をあおらないでほしい。素晴らしい名古屋の未来をつくるための行動を取ってほしい。

稀代の傑物である市長の政局を作り出す手腕には尊敬の念を持つが、政策の実現が伴わなければ政治家としての高い評価は伴わない。対立より対話を切に願います。